



もりもと まさお
森本 正男 氏

かむさん
(雅号 果無山)

生年月日 明治 40 年 10 月 21 日生

住 所 田辺市中辺路町野中

中辺路町野中で、山仕事に従事しながら「地方史」、「民俗」、「地誌」の研究など、文化活動を続けてきた地方史家であり、平成 20 年 (2008 年) 満 101 歳を迎えた。

氏は、昭和の初期に当地 (旧田辺) の地方紙である「熊野太陽」へ勤務し、その後昭和 5 年 (1930 年) に和歌山県立蚕業試験場を卒業、同試験場に勤務の後、昭和 13 年 (1938 年) からは「大日本民報」の記者及び経営者として同紙の発刊に辣腕を振るう。

一方、居住地域のみならず、紀南や熊野の、一般人が容易に訪れたりしないような奥地にも足を踏み入れ、そうした土地の隠れた歴史を掘り起こしてきていることに氏の面目はある。これは昭和 19 年 (1944 年) から、警察官としてすさみ、湯の峯、本宮、九重等に勤務し、地域の生活風土を体感した経緯によるところが大きい。こうした中、昭和 45 年 (1970 年) 12 月には、約 2 年にわたって紀南の各地を歩き、自ら収集した史料や伝承などを集めた『牟婁風土記』を刊行し、またその後、日高地方を中心に紀南各地を巡り様々な史料を集め、昭和 47 年 (1972 年) から翌年にかけて「天正兵乱」時の湯川氏を中心にした紀南の諸豪の動静を書きまとめた『天正兵乱のこと』を、平成 18 年 (2006 年) 5 月に発刊する。

また、氏の論文や論評、随筆などは、自らの著書の他にも様々な刊行物に掲載されており、特に中辺路町の公民館報である「なかへち」には、『郷土物語』、『続郷土物語』を 60 回、『山中随想・古道のささやき』を 30 回の合計 90 回にわたり連載されているのをはじめ、橋本観吉氏主宰の季刊誌『熊野史研究』には、平成 11 年 (1999 年) に 50 号で終刊になるまでの間に 45 回の寄稿を行う。このほか、「くちくまの」、「中辺路文化」、「番所山通信」、「家の光」、「紀州政経新聞」や「近野民報」、また最近でも季刊随筆誌「土」への寄稿 (平成 20 年 (2008 年)) など幅広い執筆活動を行うほか、学校や公民館等での講演活動により、長年にわたり紀南地方の隠れた歴史や伝承を広く紹介している。

さらに、中辺路町の文化財審議会委員長や町誌編さん委員を務めるなど、郷土の文

第 39 回 (平成 20 年)

化財の保護・保全活動にも貢献するほか、学校教育に対しても資史料の提供等を行っており、こうした地方史等の研究及び紹介、文化財保護や学校教育等への貢献などを通して地域文化の発展に寄与している。

(略 歴)

大正 9 年 (1920 年) 3 月	野中尋常高等小学校卒業
[昭和初期]	地方紙「熊野太陽」勤務
昭和 5 年 (1930 年) 3 月	和歌山県立蚕業試験場卒業
昭和 5 年 (1930 年) 6 月	和歌山県立蚕業試験場研究科修了 和歌山県立蚕業試験場勤務
昭和 13 年 (1938 年)	地方紙「大日本民報」発刊
昭和 19 年 (1944 年)	和歌山県警察勤務
昭和 44 年 (1969 年) 12 月	中辺路町文化財審議委員
昭和 45 年 (1970 年) 12 月	『牟婁風土記』発刊
昭和 56 年 (1981 年) 10 月	中辺路町誌編さん委員